



**2020年3月期 第1四半期
決算補足説明資料**

2019年7月31日（水）

**ウェーブブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証一部）**

- 当社のセグメントは、従来「インテリア事業」、「編織事業」、「産業資材・包材事業」および「アドバンステクノロジー事業」の4区分としておりましたが、本年1月に実施した組織再編に伴い、当第1四半期連結会計期間から、従来の4区分を改め、「インテリア事業」、「**マテリアルソリューション事業**」および「アドバンステクノロジー事業」の3区分に変更しました。
- これにより、**2019年3月期のセグメント情報は、従来のセグメント区分から、変更後のセグメント区分に組み替えた数値として**おります

- 2019年1月に実施した組織再編後の新たな体制下での初年度第1四半期
- 昨年度第4四半期の急激な落ち込みから確実にリカバリーしながら、プラスチック加工業界を取り巻く市場環境の劇的な変化に、中長期的な観点から対応するべき事業年度

- 売上高 7,881百万円 (前年同期比+4.0%)
 - 全事業セグメントにおいて、前年同期比プラスを達成
 - 原材料価格上昇分の売価転嫁のための値上げによる売上高の増加や、大口取引先との契約が再開したホームセンター向け販売が牽引
 - アドバンステクノロジー事業においては、金属調加飾フィルム分野が中国自動車市場向けで苦戦したものの、PMMA/PC2層分野がカバー

- 営業利益 721百万円 (前年同期比+26.8%)
 - 全事業セグメントにおいて、前年同期比プラスを達成
 - 原材料価格上昇分の売価転嫁のための値上げ、相対的に高利益率な製品の売上増加、生産効率の向上等による原価低減が貢献
 - これらにより、営業利益率は前年同期7.5%から9.2%に改善

- 経常利益 703百万円 (前年同期比△0.7%)
当期純利益 477百万円 (前年同期比△5.6%)
 - 負ののれんの償却額が前年同期に比べ88百万円減少 (営業外収益が88百万円減少) したため前年同期比減

■ 今後の見通し

- 売上高、営業利益ともに期初の業績予想を据え置く
- 売上高は第1四半期の増加傾向が今後も続くと想定。通期では、前期に達成した過去最高を超えるものと予想
- 通期営業利益は前期比+18.3%、営業利益率6.2%（前期営業利益率5.4%）を予想
- 国産ナフサ価格は期初想定45,000円/KLに対し、第1四半期の実績値は平均41,200円/KLと期初想定値を下回るも、第2四半期は期初想定並みを見込む

(単位：百万円)

	2019年3月期 第1四半期 (実績)	2020年3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	2020年3月期 第2四半期 累計(予想)	進捗率
売上高	7,577	7,881	+303	+4.0%	14,500	54.4%
営業利益	569	721	+152	+26.8%	940	76.8%
経常利益	707	703	△ 4	△0.7%	930	75.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	506	477	△ 28	△5.6%	630	75.8%
1株あたり 当期純利益(円) ¹	50.61	50.11	-	-	66.08	-
EBITDA ²	794	972	-	-	-	-

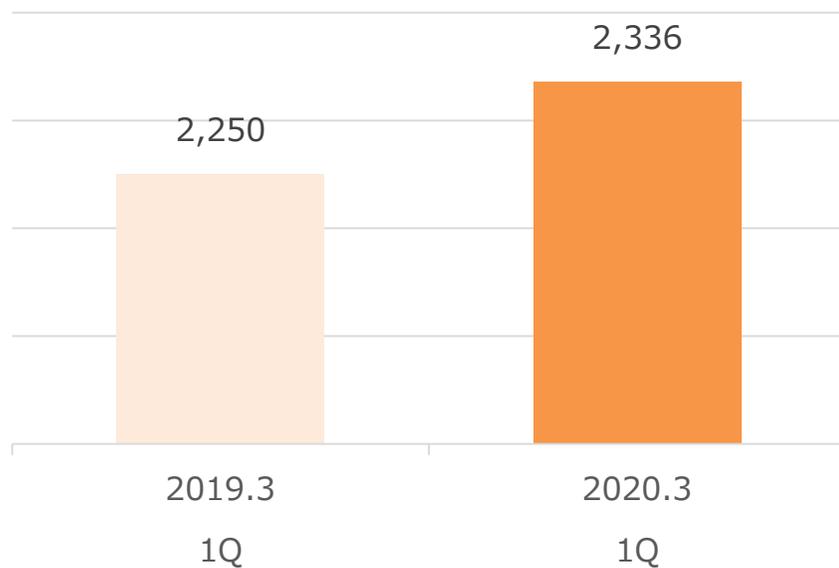
1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2019年3月期第1四半期は10,000,276株、2020年3月期第1四半期は9,533,290株、2020年3月期第2四半期累計は、9,533,290株(予想)です。
2. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(単位：百万円)

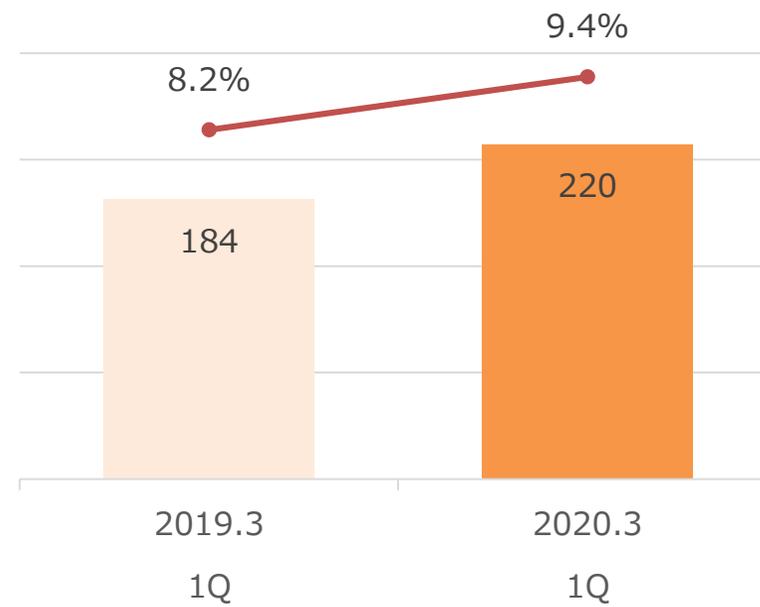
	2019年3月期 第1四半期 (実績)	2020年3月期 第1四半期 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率
売上高	7,577	7,881	+303	+4.0%
インテリア	2,250	2,336	+85	+3.8%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	4,693	4,817	+123	+2.6%
アドバンステクノロジー	824	840	+15	+1.9%
その他	△ 191	△ 112		
営業利益	569	721	+152	+26.8%
インテリア	184	220	+36	+19.6%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	443	558	+114	+25.9%
アドバンステクノロジー	39	74	+35	+87.8%
その他	△ 98	△ 132		

単位：百万円

売上高

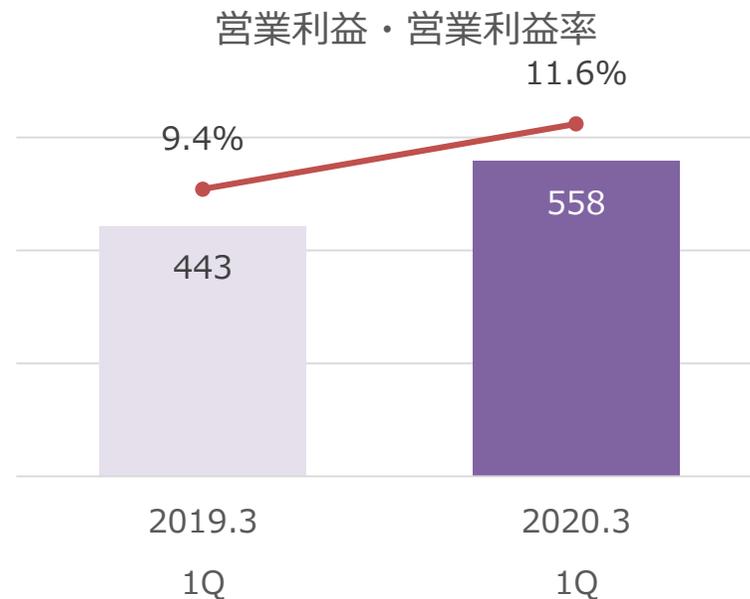
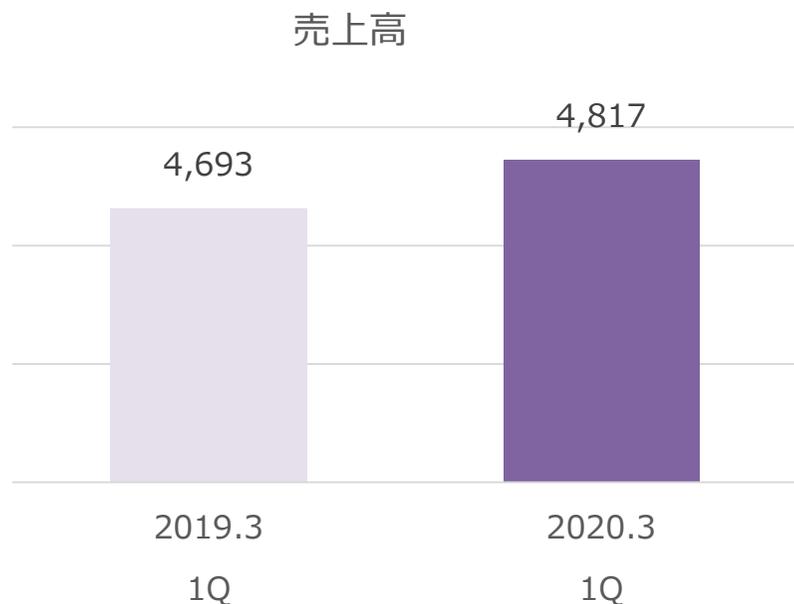


営業利益・営業利益率



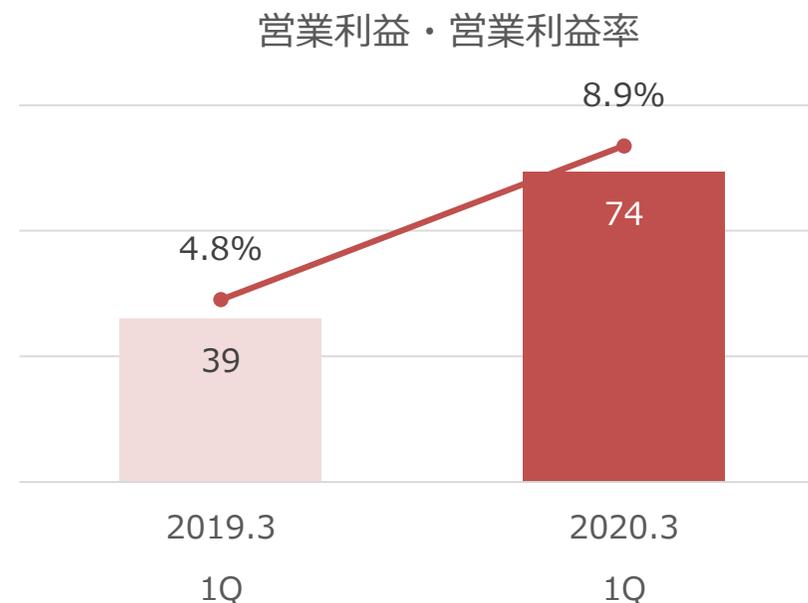
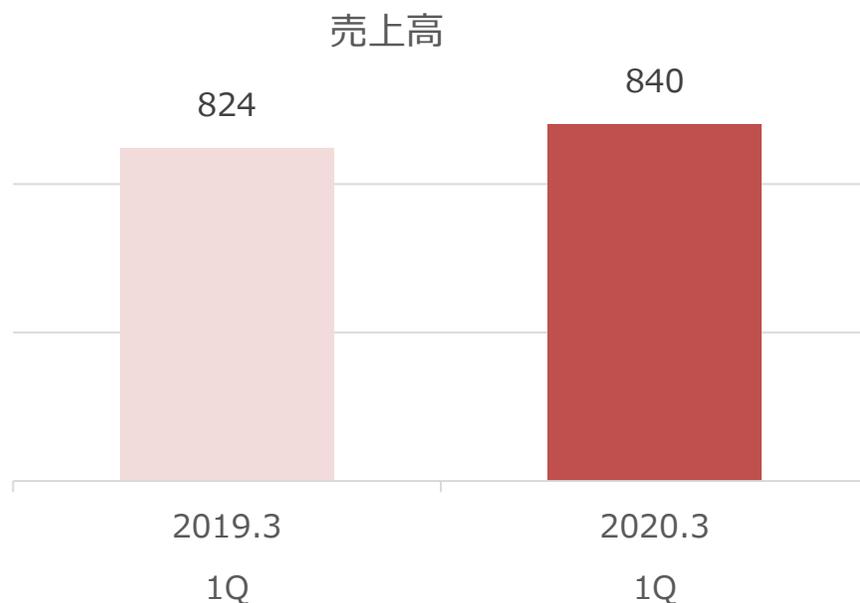
- (株) サンゲツ向けの壁紙売上高は、当グループ製品の掲載点数が増加した見本帳の浸透効果による量産品の販売数量の増加と、原材料価格の上昇に伴い昨年秋に実施した値上げが奏功し、前年同期に比べ7%増加
- 上記値上げ効果に加え、売上の増加、生産効率の向上等による原価低減が利益に寄与
- 今後は、(株) サンゲツが上市した新中級品見本帳FINE (5月)、および、新量産品見本帳SP (6月) の市場への浸透により、量産・中級品ともに販売拡大を狙う

単位：百万円



- リビングソリューション（生活資材から名称変更）分野において、大口取引先との取引が再開したホームセンター向け網戸用品等の販売が好調。前期、一部取引先の統合等により失った分をカバーの上、売上伸長
- ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション（産業資材から名称変更）分野においては、相対的に利益率の高い、工場向け間仕切りシートやショッピングセンター向け防煙垂壁用途の高透明不燃シート等の売上が好調
- パッケージングソリューション（包材から名称変更）分野においては、食品包装用シートの売上は低調に推移したものの、原材料価格上昇分の売価転嫁のための値上げや、前期から実施している生産体制の大幅な見直しにより収益率を大幅改善
- アグリソリューション（農業資材から名称変更）においては、土壌改良剤が堅調も天候不順により遮光網の販売が低調に推移
- 中国子会社においては、ホームセンターとの取引が順調に拡大し、増収増益

単位：百万円



- 金属調加飾フィルム分野において、ここ数年売上を伸ばしてきた中国市場では、排ガス規制強化により生じた現行モデルの生産調整等に起因し、前期第4四半期より急激に売上が落ち込み、売上・利益ともに前年同期を大きく下回る
- 直近は回復傾向にあると見えるものの、米中貿易摩擦の影響により中国市場は引続き不透明な状況にあり注視が必要
- PMMA/PC2層シート分野においては、スマートフォン用途の販売が堅調に推移し、生産トラブルにより苦戦していた前年同期に対し、売上・利益ともに大幅に改善。金属調加飾フィルム分野の落ち込みを補う
- スマートフォン市場の需要は引き続き旺盛も、他シートメーカーとの競争激化が進んでおり、高機能機種や車載用途等の高付加価値案件の獲得を狙い、棲み分けを図る

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。